

「高知県橋梁会平成 26 年度第 2 回研修会」報告

高知県橋梁会理事

西川 準二

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成 26 年度第 2 回研修会が、去る 2014 年 8 月 25 日(月)に、高知市本町にある高知会館の「飛鳥の間」で開催された。

13 時からの研修会では、会員企業で技師長をされている宇野裕恵様の講演、関連企業で技術部長をされている後藤琢磨様の講演、日本技術士会で理事をされている加賀晃次様の講演を行った。そして最後に右城会長のコーディネーターにより、各分野でご活躍の堀田幸雄様、北川奉功様、前田秀夫様、小原義廣様を迎えて橋梁のメンテナンスを中心にパネルディスカッションが行われた。8 月 3 日の台風 12 号、10 日の 11 号による災害対応で忙しい時期にもかかわらず 60 名の参加を頂いた。

■研修会 (13:00~17:00)

研修会に先立ち右城会長より、連続台風による災害への各業界の方々への対応のお願い、今後インフラの老朽化が進む中で点検・診断・修繕について各分野の方々の考えや取組をテーマにディスカッションを企画した旨の説明等による開会挨拶があった。(13:00~13:05)



右城会長による開会の挨拶

最初の講演は、オイレス工業(株)の宇野裕恵氏から「免震・制震構造による既設橋の耐震補強」と題し、橋梁の耐震補強について詳しい説明があった。

最初に設計地震動と耐震構造に用いる免震支承やすべり支承、制震ダンパーの基本機能や仕組み等を詳しく説明された。続いて耐震補強の考え方、単純桁や連続桁等様々な橋の耐震補強構造例について各種ダンパーや免震支承等を分かりやすく説明された。最後に鏡川橋や宿毛大橋等の高

知県における橋梁耐震補強例について写真を交えながら説明があった。(13:05~13:45)



宇野裕恵氏による講演

2 番目の講演は、(株)技研の後藤琢磨氏から「スーパーボックスカルバート 復興道路への対応」と題し、大型のボックスカルバートについて工法概要や施工事例等の紹介があった。後藤氏は社長と一緒に青森県からはるばる来ていただいた。

スーパーボックスカルバートは内空幅 13m 高さ 9m まで可能で、現場へはブロック割りして運搬するとの説明があった。平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災後の 9 月頃から採用が飛躍的に伸び、23 年度の 1.2 万トンから 25 年度は 3 万トンまで上昇しているとの説明があった。経済性では現場打ちに劣るが、施工スピードと品質から採用が増えているとのことであった。また新製品では土被り 15~25m まで対応ができる 6 角形のヘキサ

カルバートの紹介があった。(13:45～14:15)



後藤琢磨氏による講演

3 番目の講演は、日本技術士会理事の加賀晃次氏から「徳島に架かる橋いろいろな橋～戦前から現在まで～」と題し、わが国の橋梁技術を先導してきた徳島における橋の歴史について事例を踏まえながら説明があった。

橋を見るなら徳島へ行けと言われた理由や三好橋、吉野川橋、末広大橋等の 11 大橋架設計画の変遷、当時の橋梁技術などの説明があった。また、戦前戦後架橋に尽力した多数の方々の説明がなされた。

また最後に橋梁技術者に望むこととして、1) 橋の歴史を識れ 2) 実物を見て触れよ 3) 橋の「美」について考えよ 4) 新しい構造形式を創造せよ、と述べられて講演を締めくくった。(14:25～15:25)



加賀晃次氏による講演

4 番目の講演は、右城会長がコーディネーターを務め、パネルディスカッションが行われた。

高知県土木部 道路課 堀田幸雄課長、いの町役場 技術監理課 北川奉功技監、

(株) 第一コンサルタンツ 前田秀夫技師長、ショーボンド建設(株) 技術部 小原義廣部長の 4 名をパネラーに招き、「今後における橋梁の点検・診断・修繕のあり方」と題し、各立場から様々な課題や意見を議論していただいた。



パネルディスカッションの様子

堀田課長からは、高知県における道路橋の数は 12,721 橋あるが、内県が 2,588 橋、市町村が 10,133 橋と圧倒的に市町村が多く、市町村の点検については希望があれば技術公社への一括発注も考慮に入れているとの事であった。また予算確保や点検車両の不足も課題であると述べられた。

いの町の北川技監からは、いの町は 378 橋の内 193 橋が長寿命化修繕計画に挙げられる重要橋の位置づけをしている、点検は基本的に自前でやるが、物理的に困難な箇所は外部委託を考えているとの事であった。いの町では毎年外部研修に職員を派遣して人材の技術向上に努めているとの事であった。

第一コンサルタンツの前田技師長からは、近接目視の定義や修繕設計に関する基準が未整備であり、技術者により現場での点検に相違を生じる可能性を指摘。スキルの高い技術者の不足を補うために点検作業と診断を分けた分割発注も考慮してはどうかと提案があった。また修繕工事に関する積算基準も整備すべきとの事であった。

ショーボンド建設の小原部長からは、現場に入った後、修繕の方法が違うケースもあり、損傷状況は正確な報告が重要であり損傷図、補修図等を作成してほしいとの事であった。現場発注が重なると作業員や警備員の不足を生じるため確保に苦慮するとの事であった。



発言される堀田課長、北川技監(左側)



前田技師長(左側)と小原部長(右側)

最後に参加者から様々な質問が行われパネルディスカッションを終了した。(15:35～16:55)



活発に質問する参加者



西川理事による司会

最後に、濱田理事から本日の講演者や参加者への謝辞、12月の研修会開催、講演内容の募集などの報告があり、研修会を閉会した。(16:55～17:00)



濱田理事による閉会の挨拶

■反省会 (17:30～19:30)

研修会終了後、ザクラウンパレス新阪急高知の屋上にあるトロピカルビアガーデンに席を移し講師6名を囲み、橋梁会理事など関係者で研修会の反省会を行った。

